



Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE



新年おめでとうございます。2018年最初のオルガン通信はドドンと拡大版です。昨年末はオルガンのお陰で素晴らしい経験を沢山させて頂きました。出演した演奏会にいらした皇后陛下とお話させて頂いたり、首相公邸での晩餐会にご招待されたり、まさに一生ものの出来事ばかり。さて、2018年は一体なにが起こるでしょう!?みなさまにとって、素晴らしい一年になりますように♪

🍏 2018年2月2日（金）お昼どきオルガンコンサート♪

2018年最初のオルガン公演は500円コンサート！今回演奏して下さるオルガニスト・山田由希子さんから、曲目が届きました♪

11時開演 0歳から聴ける子供向けの公演

☆フランスの童謡をもとに作られた「きらきら星」

☆フランス近現代の作曲家ジグーによる華やかなオルガン作品



14時30分開演 大人向け公演

☆バッハが敬愛した北ドイツの巨匠ブクステフーデ「トッカータ二短調」

☆ドイツロマン派を代表する音の魔術師リストによる「コンソレーション（慰め）」第4番をオルガン編曲版で。ゆったりとした賛美歌風の書法で書かれ、美しさと哀しさを併せ持つ作品です。

2月は寒さも厳しいですので、ぜひ暖かいホールで、ホットなオルガンの響きに包まれてみませんか？素晴らしい演奏を聴かせて下さること間違いなしです！

🍏 2月17日（土）梅干野安未オルガンリサイタル Vol.4 の魅力～拡大版～



このオルガン通信ではホールオルガニスト企画 Vol.4 『美しきロマン派の世界』の魅力を拡大版で徹底解説します。まずは先日行われたリハーサルの様子からお伝えしましょう。

今回ゲストでご出演頂く世界的ピアニスト・菊池洋子さんがミュージズに来館され、リハーサルを行いました。演奏したのはフランスの作曲家セザール・フランクの『前奏曲、フーガと変奏』。この作品はオルガンソロの曲として有名なのですが、元々はピアノとオルガン(ハルモニウム)のために書かれており、

なかなかこの原曲の編成で演奏される事はありません。オルガンとピアノが写真の様に並んで一緒に演奏する、その響きを想像してみてください♪えもいわれぬ美しい響きをお楽しみに！

🍏 ロマン派の巨匠達はオルガン演奏に精通していた！？

今回はオルガンでめぐる

『美しきロマン派の世界』と題してお届けしますが、ちらしに載っている作曲家の名前をみると、ロマン派を代表する作曲家ばかり。ロマン派といえば、豊かな表現のできるピアノやオーケストラのために数々の傑作が生み出された時代です。しかしロマン派の巨匠達は、バロック音楽とりわけバッハの音楽を研究するため、バッハなどのオルガン作品を学び、オルガン演奏にも精通していたのです。1848年に残された書物には、若い音楽家へ向けて「オルガンを学ぶ事を怠ってはいけない。これほどに、音楽的に間違った習慣を正してくれる楽器は無いのだから」という言葉も残っています。それでは、これからロマン派の巨匠達とオルガンの繋がりをご紹介します♪

フェリックス・メンデルスゾーン(1809-1847) *Felix Mendelssohn*



裕福なユダヤ系のドイツ人家庭に育ち、豊かな教養と圧倒的なピアノの腕前を兼ね備えた神童として名を馳せました。14歳のクリスマスプレゼントに、バッハの「マタイ受難曲」の楽譜をもらった彼は、その6年後の1829年に自らその大作を指揮し、100年ぶりの再演を果たします。今でこそバッハの作品、この「マタイ受難曲」は世界中で演奏されていますが、当時は「時代遅れの古くさい音楽」として忘れ去られていました。これを機に、ロマン派の時代に再びその価値を取り戻したのです。メンデルスゾーンは本格的なオルガンの指導を受けており、ドイツやイギリスでバッハの前奏曲とフー

ガやコラール作品を演奏していたという記述も残っています。多くの演奏旅行を通して、バロック時代の名器やロマン派風に進化しつつある表情豊かなオルガンにも触れ、当時最先端のオルガン事情を仕入れていたと言えましょう。古典派からロマン派の時代への過渡期に生き、バロック的かつロマン派的情感の豊かさをもつ作風で知られています。オルガン作品としては、25歳頃から書かれた『3つの前奏曲とフーガ』、そして晩年に書かれた『6つのオルガンソナタ』が残されています。

ロベルト・シューマン(1810-1856) *Robert Schumann*

ドイツロマン派全盛期に活躍したピアニスト・作曲家。メンデルスゾーンに比べると、シューマンはオルガンに対する情熱は弱かったようです。ドイツのフライベルクにあるジルバーマンの名器、ライプツィヒの聖ヨハネ教会など、様々なオルガンに触る機会はありませんでしたが、シューマンの興味はその当時は発明された新しい楽器《ペダル付きピアノ》へと移っていきました。このペダル鍵盤を持つピアノは、フランツ・リストの後押しのもと、エラール社が1851年にロンドンの万国博覧会に出展したのをきっかけに、当時大流行しました。ピアノのもつ豊かな表現力に加えて、ペダル鍵盤でバス声部を受け持つためハーモニーをより充実させる事ができるのです。ペダル鍵盤を持つので、オルガニストにとっても欠かす事の出来ないレパートリーとなっています。



この楽器の為に『4つのスケッチ op.58』、『6つのカノン風練習曲 op.56』、『バッハ(BACH)の名による6つのフーガ op.60』を残しました。オルガンで演奏できる一番最初の100%ロマン派作品といっても過言ではないでしょう。



ヨハネス・ブラームス(1833-1897) *Johannes Brahms*

シューマンとも親交を持っていたブラームスは、キリスト教の深い信仰を持ち、バッハの熱心な研究者でした。若い頃から教会にあるオルガンを演奏し、初期と晩年にオルガン作品を残しました。初期にはバッハの『前奏曲とフーガ』形式で書かれた対位法的な書法による作品を幾つか残しています。ロベルト・シューマンの妻であるクララに深い恋心を抱いていたブラームスは、最晩年、最愛の人クララの死に直面します。その祈りを綴ったのが『11のコラール前奏曲 op.122』で、ルター一派の賛美歌を用いて書かれたバッハの『オルガン小曲集』に強い影響を受けています。



セザール・フランク(1822-1890) *César Franck*

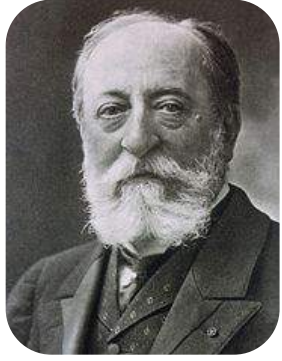
ベルギーのリエージュに

生まれ、後にフランスへと帰化したフランク。フランスのロマン派を代表する（と称するとベルギーの皆様は怒られそうですが、...）オルガニスト・作曲家です。その出生のとおり、フランクの音楽にはドイツ的な要素とフランス的な要素を融合させたオリジナリティがあります。交響曲二短調やヴァイオリン・ソナタなど様々な編成による素晴らしい作品を残す一方、パリのサント・クロチルド教会のオルガニストとしてその名を馳せていました。オルガン製作の名匠アリストイド・カヴァイエ＝コルの作った美しいオルガンのもと、教会音楽だけでなく、その当時ホールに設置されるようになったオルガンで演奏するために、一般会衆に向けた馴染み易い作品も多く生み出しました。



カミーユ＝サン＝サーンス(1835-1921) *Camille Saint-Saëns*

フランスのロマン派を代表するサン＝サーンス。パリのマドレーヌ寺院のオルガニストでもあったサン＝サーンスは、'オルガン付き'の愛称で親しまれる『交響曲第3番』などの管弦楽作品やピアノ作品の他に、多くのオルガン作品を残しています。政治的な人柄が伝えられており、謙虚で欲の無いフランクとはあまり仲が良くなかったと言われています。あるオルガンのお披露目演奏会の際には、自作の他にメンデルスゾーンやバッハのオルガン作品を演奏した記録も残っており、ドイツ音楽にも関心を寄せていた事がわかりますね。今回の演奏会では最も演奏される機会の多い、『幻想曲変ホ長調』を演奏します。



恒例！聴き比べ企画♪～ピアノとオルガンの対話～



これまでロマン派のオルガン作品についてお話してきましたが、ロマン派音楽といえばやはりピアノも欠かせませんね！20世紀までは、音楽家は一つに限らず様々な楽器を演奏出来ていましたので、本来は私がピアノ演奏できれば一番よいのですが…。今回はドイツとフランスのロマン派作品に絞り込み、ピアノとオルガンで其々の色合いの違いをお楽しみ頂きます。ドイツとフランス、みなさんはどちらのロマン主義がお好みでしょうか？

🍏演奏曲目を一挙公開♪

前半はお話を交えながら聴き比べ、後半はコンサート形式で演奏します。

○F.メンデルスゾーン：前奏曲とフーガ 八短調 op.37-1

○C.サン＝サーンス：幻想曲 変ホ長調

【聴き比べコーナー】

●F.シューベルト：楽興の時 第3番

●R.シューマン：《幻想小曲集》より〈飛翔〉

○R.シューマン：「ペダル付きピアノのための6つのカノン風練習曲」op.56よりロ短調・変イ長調

○A.ボエリー：幻想曲とフーガ変ロ長調 Op.18-6

●F.ショパン：《24の前奏曲》より第7番・第16番

◎C.フランク：前奏曲、フーガと変奏曲 op18

休憩

○J.ブラームス：前奏曲とフーガ ト短調

○J.S.バッハ：フーガ トと短調 BWV 578

●C.ドビュッシー：月の光

○Ch.グノー：マリオネットの葬送行進曲

○C.フランク：コラール第3番



○オルガン ●ピアノ ◎オルガン+ピアノ オレンジ：ドイツ作品 ブルー：フランス作品

(プログラムや演奏順は変更になる可能性があります。)



🍏ゲストは世界的ピアニスト・菊池洋子さん♪

すれ違ったら思わず振り返ってしまうほど、すらりと背が高く、黒髪のアジアンビューティー。2002年のモーツァルト国際コンクールで日本人としてはじめて優勝されたのを皮切りに、世界的に注目を集めるピアニストの菊池洋子さん。去年は所沢ミューズの500円コンサートでも演奏して下さっているので、演奏に魅了された方も多いはず。実はそのコンサート、私もこっそり足を運んで演奏を聴きに伺っていました。評判違わぬ美しい音色、作品そのものの美しさを追求した表現、バロックや古典派で特に輝くクリスタルの響き、こんな方と一緒に演奏できるなんて…と胸が高鳴りました。現在はザルツブルクにお住まいで、演奏会で世界中を飛び回っておられます。今回は聴き比べと称して、ピアノソロ作品も演奏して頂きますので、その美しい音色も存分にお楽しみ頂けるはず！



今回の目玉は、なんといっても一緒に演奏をするフランクの作品。この作品は私もオルガン一人（ソロ）で演奏しますが、実は原曲の編成で演奏するのは初めてです。オルガンのパイプから鳴り響く保続音とダイナミクスを自在に操れるピアノの表現力の融合はまさに極上の響きです。

みなさま、2月17日はお誘い合わせのうえ、是非お越し下さい！